

2016年1月吉日

大崎市長 伊藤 康志 殿

一般社団法人 日本建築学会
東北支部長 源栄 正人

大崎市田尻総合支所（旧田尻町役場）庁舎の保存活用に関する要望書

拝啓、時下ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、本会の活動につきましてご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、大崎市田尻総合支所（旧田尻町役場）庁舎の建替え計画に接し、地元市民有志、大崎商工会が保存活用に関して検討されている由、うかがっております。

本建築は、1958（昭和33）年に竣工した現代建築であり、本会での評価はまだ定まっておりますませんが、同じ設計者による同じ形式の学校建築が他県において国登録有形文化財に登録されるなど、全国的に注目されており、これからの研究の対象に十分になりうる建築です。

本建築（次頁写真）を設計者した坂本鹿名夫は、1911（明治44）年東京生まれ。円形平面による建築「円形建築」の合理性を主張し、数多くの「円形建築」を設計した建築家です。当時、彼の「円形建築」は世界でも話題になり、世界的建築家丹下健三は、坂本鹿名夫の「円形建築」を、米国人建築家フランク・ロイド・ライトや丹下健三自身のそれとは異なる、日本的かつ、独創的なものであると評しています。また、昭和30年代に流行し全国各地に建てられた「円形建築」は学校の校舎が多く、庁舎で現存する事例は本建築の他に聞かれません。従って、本建築は大変貴重な建築遺産と言えます。地域的観点から見ても本建築は、旧田尻町の成り立ちを後世に伝えるシンボルとして重要な位置を占めていると考えられます。しかし、本建築の最大の魅力はその形態です。全国の現存する「円形建築」は地域のランドマークとして親しまれています。本建築の屋上には360度のパノラマが広がっており、ここから田尻の風景を体感することができます。活用の可能性を秘めた建築でもあります。

貴下におかれましては、この貴重な建築の持つ高い文化的意義と歴史的価値についてあらためてご理解いただき、かけがえのない本建築を保存活用し後世に伝えていくために、どうか格別のご配慮を賜りたくお願い申し上げます。

なお、本会は本建築の保存活用に関して、学術的観点からのご相談をお受けいたします。

敬具

＜大崎市田尻総合支所（旧田尻町役場）庁舎外観及び内観写真＞



各写真とも、宮城県建築士会より提供